福岡城武具櫓跡の調査

2015 年 3 月 14 日
現地説明会資料

福岡市文化財部大規模史跡整備推進課　TEL 092-711-4784

調査の目的

福岡城では「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、城内にあった建物の復元整備計画が進められており、その対象の一つである本丸武具櫓の遺構の確認と、建物構造の把握のための発掘調査を 2013 年より行っています。武具櫓は本丸の一番南側に位置する櫓で、東西隅の三階櫓とその両者を結ぶ二層の多聞櫓からなります。今回は武具櫓の東隅に位置する東三階櫓とその付近の調査を行いました。

調査成果

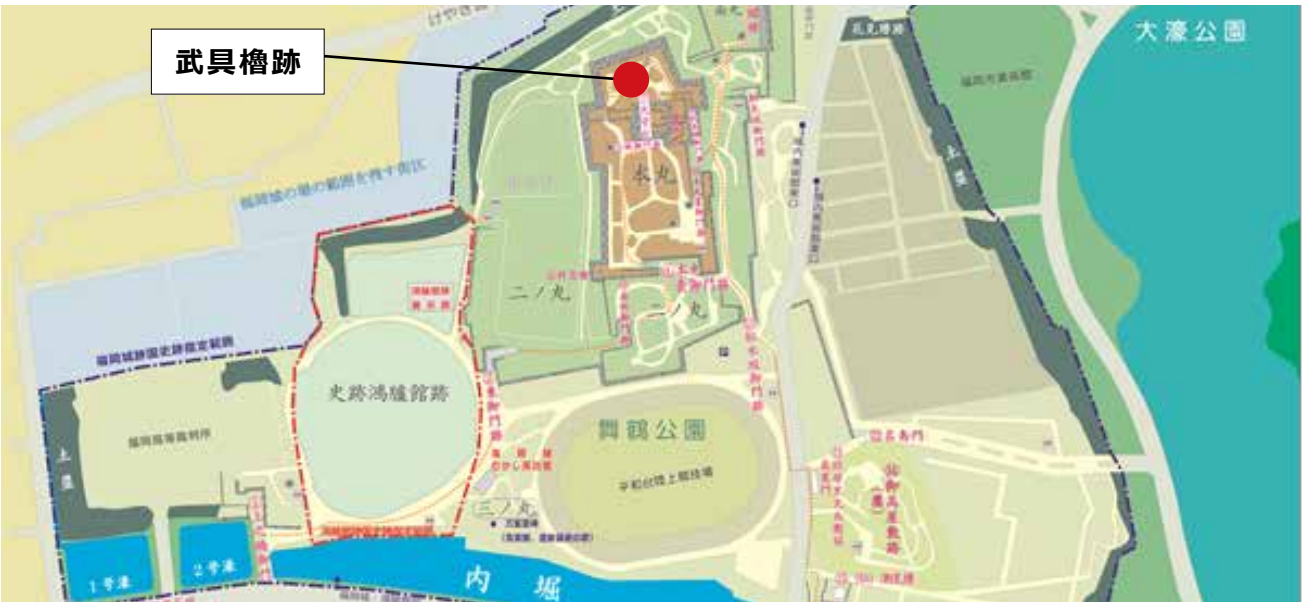
前回見つかった雨落溝よりも古い雨落溝（旧雨落溝）を発見しました。前回見つかった雨落溝（新雨落溝）の南側 240cm に位置しています。新雨落溝を造る際に旧雨落溝は埋められますが、一部で旧雨落溝の石列を再利用していることもわかりました。建物の建替により軒先が前に張り出したため、それにあわせて雨落溝も新しく造り直されたとみられます。

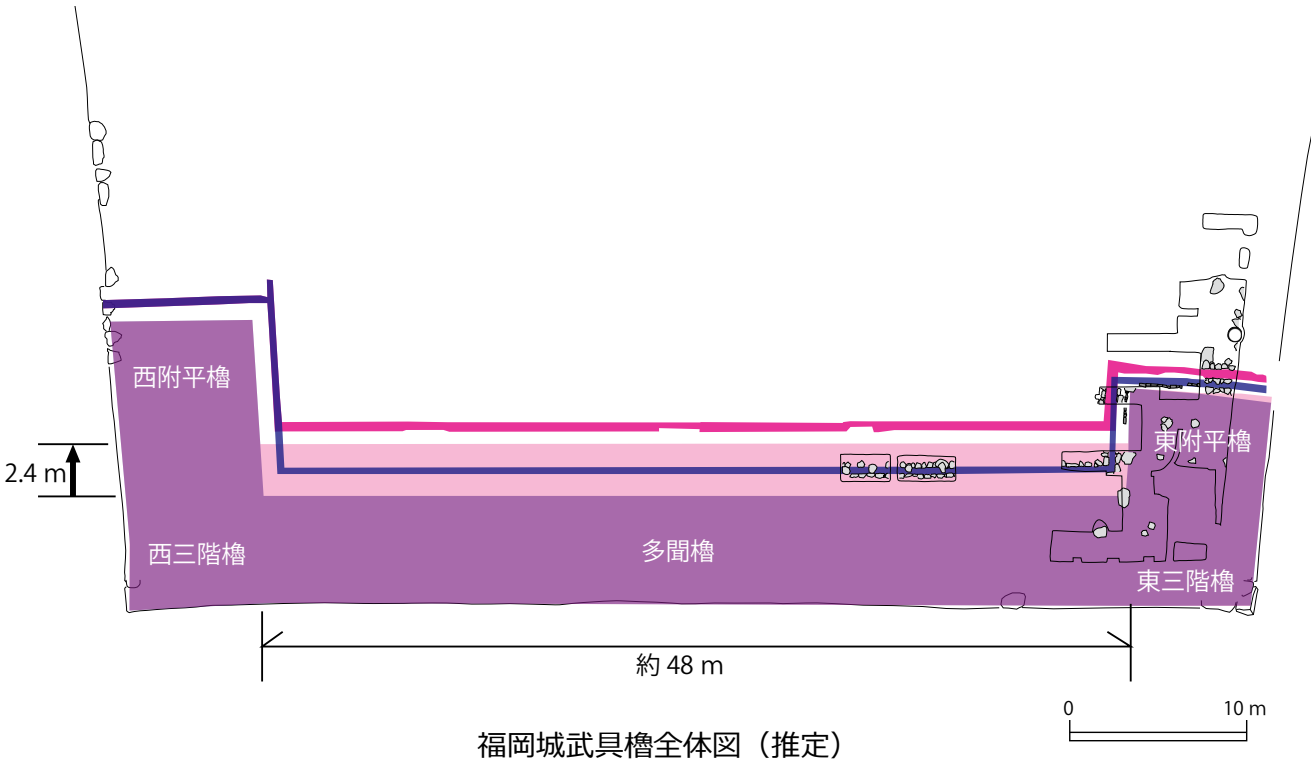
建替えにより多聞櫓北側の柱通りも約 3m 北側に張り出し、多聞櫓の東西幅は約 48m あることから一階の平面積は約 144 ㎡広がりました。またこの多聞櫓は二階建てであり、あわせて二階の平面積も大幅に拡張されたことでしょう。武具櫓では江戸時代後期に二度の建替えが行われたことが文献で分かっていますが、今回の調査はその建替えの具体的な姿を示すものといえます。

出土遺物

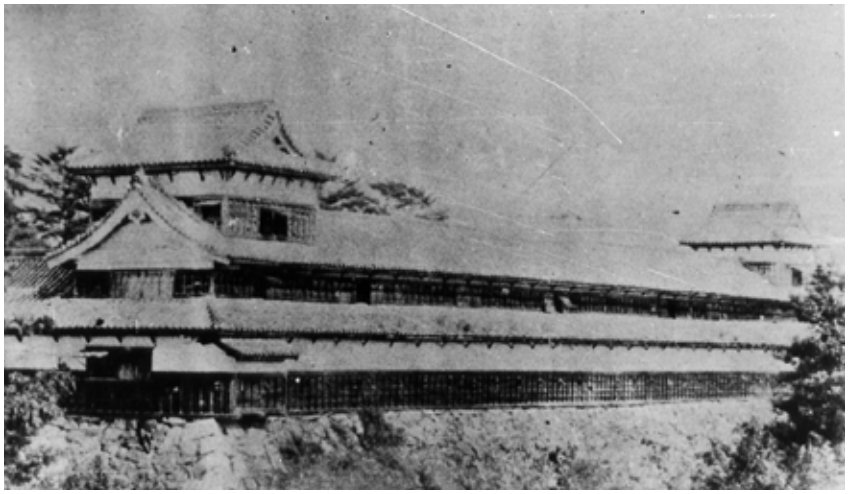
東三階櫓付近より五七桐文の軒丸瓦が出土しました。福岡城は築城の際、黒田長政が筑前入国時に入城した名島城から建築資材を運び出して作られたことが知られています。五七桐文は豊臣秀吉が自ら用い、また家臣に下賜した家紋であり、豊臣家と縁の深い小早川秀秋が城主となった名島城でも五七桐文の軒丸瓦が用いられました。

福岡城ではこのほか本丸の月見櫓跡からも五七桐文の軒丸瓦が見つかっています。桐文の瓦は福岡城築城時の事情を今に伝える貴重な資料といえます。また東三階櫓からはその他に鯱（しゃちほこ）の破片もみつかっています。





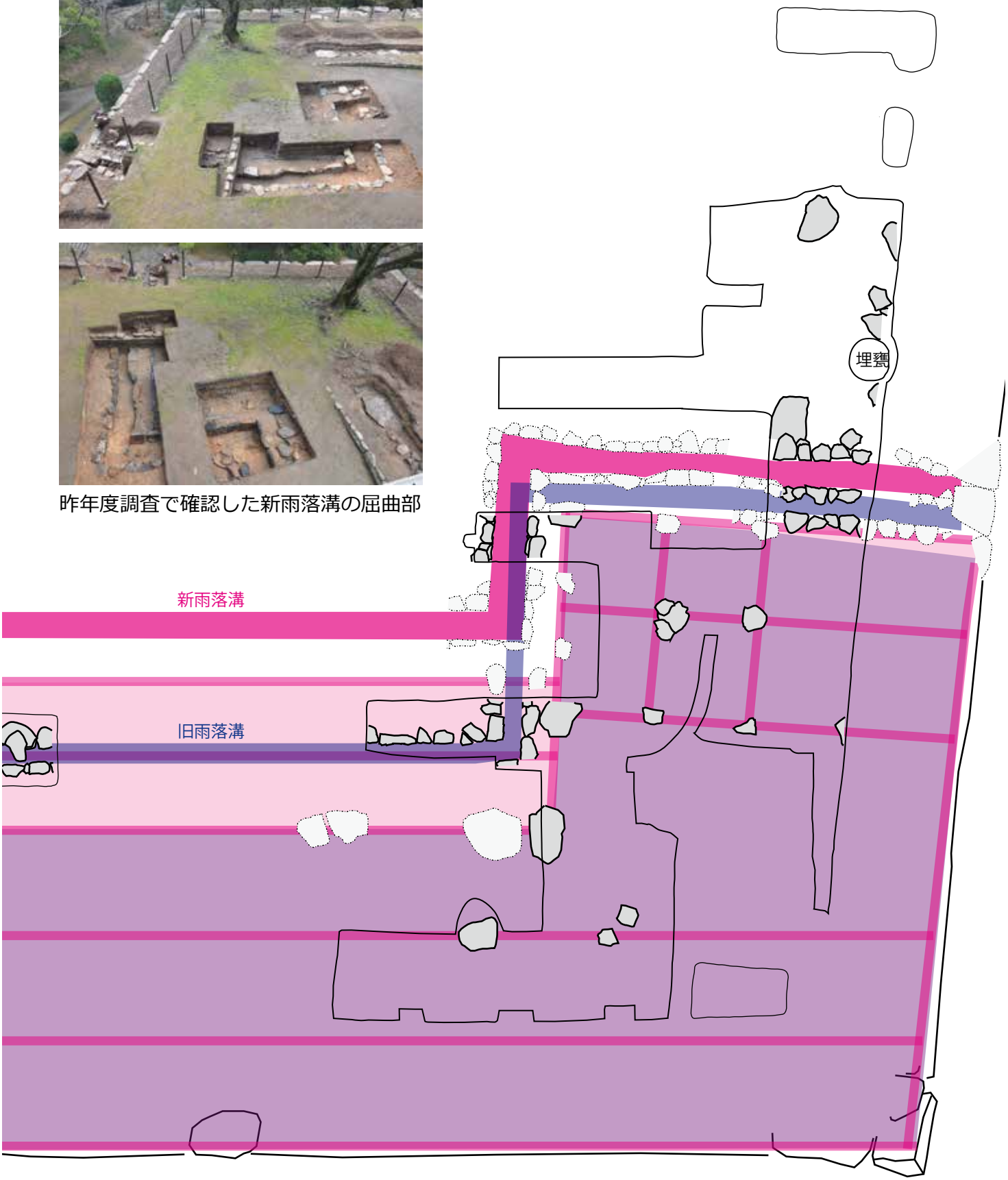
福岡城武具櫓全体図（推定）



福岡城に現存していた頃の武具櫓

黒田家別邸に移築された武具櫓

昨年度調査で確認した新雨落溝の屈曲部



武具櫓跡発掘調査 遺構図（点線は昨年度調査）

旧雨落溝と溝埋め立て後に設置された礎石（東から撮影）

旧雨落溝と新雨落溝との関係（青が旧、赤が新。北側へ 2.4m 移動している。東から撮影）